

浅瀬石川・平川流域の 考古学



特別公開
成田彦栄氏
考古資料収蔵展示室

出典:国土地理院撮影の空中写真(2015年撮影)を加工して作成

令和3年 10.9 土 ▶ 11.7 日

開館時間 10:00~16:00
入場無料 期間中無休 10月30・31日のみ休館



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会期ならびに開館時間が変更になる場合がございます。開館状況等は、ホームページにてお知らせしておりますので、ご確認をお願いします。

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kitanihon/kitanihon.html>
北日本考古学研究センターHP



- 会場/弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター展示室 (総合教育棟2階)
〒036-8560青森県弘前市文京町1番地 Tel.0172-39-3190
- 主催/弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター
- 共催/平川市教育委員会・黒石市教育委員会・田舎館村教育委員会



浅瀬石川・平川流域の考古学

津軽平野東南部に位置する浅瀬石川・平川流域は、縄文時代から多数の遺跡が見つかっており、山麓では前期~中期の四戸橋遺跡や後期の環状列石が見つかった太師森環状列石があります。低地では夏に気温が上がる盆地性の平野独特の気候と、川の氾濫によって作られた平らな土地から青森県域で初めて弥生時代に水稻農耕が本格的に行われた地域です。古代以降も豊富な農産物を基盤として、津軽地域では唯一を末期古墳(8世紀後半)が多数見つかった原遺跡をはじめ、中世には曾我氏や大光寺氏など諸豪族がこの地を拠点に活動します。江戸期には黒石藩や猿賀組代官所が設置され、商業、手工業の町として発展してきました。その様子は菅江真澄の著作にも登場します。

本センターでは、令和元年度から田舎館村、平川市、黒石市との共同研究により、過去の文化財、発掘資料の整理、分析、保存処理を実施し、新たな発見も出てきています。そこで、調査成果を速報するとともに、考古資料を通時的に展示することで、この地域の日本史上における意味を概説します。本企画展は、これまで非公開だった貴重な資料をふくめ、現在までに得ている成果を一般に公開するとともに、本学の教育、研究について理解を深めます。

主な展示遺跡

田舎館村

弥生：垂柳遺跡

黒石市

縄文：長坂(1)遺跡、地蔵沢遺跡、白兀(1)遺跡、
築館遺跡、石名坂遺跡、石倉下遺跡
古代：甲里見(2)遺跡、豊岡(2)遺跡
獅子沢のしし石

平川市

縄文：石郷遺跡、堀合遺跡群、八幡崎遺跡、
四戸橋遺跡、葛西覧造氏資料
弥生：井沢遺跡、駒泊遺跡、五輪野遺跡、
大光寺新城跡
古代：杉館遺跡、原遺跡
中世：大光寺新城跡、八幡崎出土銭



成田彦栄氏考古資料 収蔵展示室特別公開



弘前大学文京町地区 キャンパスまでのアクセス

JR弘前駅から

- 徒歩の場合：約20分
- タクシーを利用する場合：約5分
- バスを利用する場合
JR弘前駅前(中央口)【3番のりば】
「小栗山・狼森線」または「学園町線」
に乗車、【弘前大学前】